

# 学校法人盛岡大学附属厨川幼稚園

## 平成 29 年度自己評価

平成 30 年 5 月 31 日

### 1 教育目標

キリスト教精神に基づき、健康で明るい心の豊かな子どもを育てる。

- ・心も体も健やかな明るい子ども
- ・豊かに感じのびのびと表現する子ども
- ・意欲を持って活動に取り組む子ども

### 2 平成 29 年度の目標

- ・幼稚園教育要領が改定となる。内容を理解し保育に繋げる。
- ・新幼稚園教育要領に基づき保育記録を活用した話し合いや、特別支援の研修から個別の指導計画へつなげられるよう、研修の充実を図る。
- ・当園の恵まれた自然環境を生かし、教師自身が身近な自然を意識することで、子ども達の気づきや感動等、実体験を通して学びにつながる保育を、園の特徴の一つとしていく。
- ・保育環境や教師としての心構え、姿勢など、一教師として各々の意識向上を図る。
- ・園庭開放や未就園児サークルの参加者に丁寧にかかわり、信頼関係を築く。
- ・一人ひとりの良さを個性として大切にしている園の保育の良さが伝わっていくよう、クラスだよりや連絡帳、対話などを通し、保護者に発信していく。また、保護者 Facebook やホームページを有効活用する。
- ・地域に新興住宅地が建設予定である。附属幼稚園の良さや教育内容を見直していきたい。保護者の関心が向けられることで、園に足を向けていただくきっかけにつなげる。
- ・教職員が個々に環境の美化や整備に努め、衛生的な印象を保つ。
- ・設備遊具の安全点検を徹底する。
- ・定期的に避難訓練を行い、園児自身が安全に関する意識や動きを習得していく。
- ・各危機管理マニュアルを教職員で再周知する。

### 3 評価項目の達成と取り組み状況

評価項目	達成と取り組み状況
I. 保育の計画性について	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 幼児の姿から週の指導計画を立案している。幼児が主体的に関わりたくなるような素材や遊び、環境構成が難しいと感じる教員もいた。他教員と環境を見あったり意見を出し合ったりする機会を設けることができたので、今後も継続していく。</li><li>・ 新幼稚園教育要領について、講師の先生を招いて学ぶ機会があった。</li></ul>

	<p>主な違いについて学んだが、今後も十分に理解できるよう引き続き学んでいく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育課程の編成について、話し合いの時間を十分に持てなかった。再度、園内研等の話し合いに絡め、園として育みたい子どもの姿についてイメージし、育ちの見通しを持つ。そのために、園内研修など話し合いの時間の確保をしていく。</li> <li>・ 保育の振り返りに記録を役立てた。自己課題の焦点化、話し合いを深めることが研修の課題として浮き彫りとなった。</li> <li>・ 個別の支援計画に必要な十分な話し合いが行われなかった。園内研修で子どもの日々の育ちについて話題を多く持ち、特別な支援を要する子、周囲の子、相互の育ちに必要な環境構成や教師のかかわり方について話し合い、理解を深めていく。</li> </ul>
<p>II. 保育の在り方、幼児への対応について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日々の記録を話し合いで活用し、多面的に幼児を捉えることで自分の保育を省みることが出来た。教職員間で話し合いを持つことで、保育のありかたや幼児への対応について、共通理解をした。幼児の発達の様や課題について見通しがもてるよう、今後も次の保育につながる話し合いを行っていく。</li> <li>・ クラス環境を互いに見合う、話し合うなどの機会が増えた。保育室の整理整頓、安全管理についてさらに学んでいく機会を持つ。</li> <li>・ 子ども一人ひとりのありのままを大切にし、自己発揮できるよう丁寧にかかわってきた。今後もその子の思いに寄り添い、楽しい園生活を送れるように教師もともに過ごしていく。</li> </ul>
<p>III. 保育者としての資質と能力について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもの手本となるような教師としての姿勢を心がけ、自覚をもって過ごしていた。子どもの育ちに合わせた活動や、様々な環境を構成していけるような教師としての資質向上に努力を重ねる。</li> <li>・ 日々の保育や行事、園務分掌など、より見通しを持って行っていくよう努める。</li> <li>・ 子どもの育ちや、自分の保育の感覚的な部分を語れるよう、意識して日々の保育を行い、言葉にする努力をする。</li> </ul>
<p>IV. 保護者への対応について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者への対応には出来るだけ言葉を選び、真摯な態度、明るい雰囲気を中心に心がけ、園での様子や家庭での様子を伝えあいながら子どもの育ちを共通理解していけるよう、努めて来た。保護者からの相談事は園として受け止め、全体で適切なかかわりを行えるように話し合いを大切にしている。</li> <li>・ 発言や態度など対応について、保護者から指摘を受けたことがあった。保護者との連携を大切にし、信頼関係を築いていけるよう努力する。</li> </ul>
<p>V. 地域の自然や社会との</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園庭開放や未就園児サークルなどで、地域の方とかかわりをもつこ</li> </ul>

<p>かかわり</p>	<p>とができた。散歩など、園外保育を積極的に行っていく。地域の人とのかかわりや自然に触れる機会を設け、体験からの学びを大切にしていけるよう、教員間で話し合い、保育に取り入れていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子育て支援について、職員間での話し合いを持ち、共通理解しより良い子育て支援の方策を検討する。</li> <li>・ 行事の際に地域の方、小学校にご案内をしたが、その他にかかわる機会をどのように作っていくか検討していく。</li> <li>・ 小学生との交流や、幼稚園、保育園、小学校との連絡会等がかかわりを持つことが出来た。互いに教育要領を学び、生活の仕方や学習の仕方の違いに触れる機会を持ち、相互の理解に努めることで、円滑な接続期はどうあれば良いか考えていく。また、公開保育を行い、近隣の小学校の先生方にも参加していただけるようにし、幼稚園と小学校相互の教育理解に努める。</li> </ul>
<p>VI. 研修と研究</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園外の研修等で、他園との情報交換や様々な先生の考え方に触れる機会となった。全員で参加できない事もあるので、報告し合う機会を設けていく。</li> <li>・ 附属幼稚園同士で学年研修や公開保育が出来て良かった。継続して行っていきたい。</li> <li>・ 園内研修の時間の確保が難しかった。検討していく。</li> <li>・ 専門性にかかわる内容、特に教育要領の改訂に伴い、教育課程や指導計画の理解と作成に関する研修を行っていく。</li> <li>・ 今日的課題（アレルギー、発達障がい、子育て支援、幼少連携、危機管理等）について幅広く話題にし、理解を深めていく必要がある。</li> <li>・ 園全体で一人ひとりの子ども達と関わる機会を大切にし、教職員間の繋がりから園全体で子どもを育てていくことが可能になるよう努力する。</li> </ul>

#### 4 総合的な評価結果について

- ・ 取り組むべき課題について、それぞれに行った自己評価の内容を、年度当初に教職員で共通理解を行う。取り組み状況について話し合うことで、園としての目標や計画を明確にし、実践に向けていく。

#### 5 今後の課題

##### ① 教育内容の充実

- ・ 幼稚園教育要領が改定となる。内容を理解し保育に繋げる。
- ・ 新幼稚園教育要領に基づき保育記録を活用した話し合いや、特別支援の研修から個別の指導計画へつなげられるよう、研修の充実を図る。
- ・ 園内研修、教育課程編成など、教育内容の充実を図るため、話し合いの時間の確保に努める。

- ・ 当園の恵まれた自然環境を生かし、教師自身が身近な自然を意識することで、子ども達の気づきや感動等、貴重な体験からの学びにつながる保育を、園の特徴の一つとしていく。
- ・ 保育環境や教師としての心構え、姿勢など、一教師として各々の意識向上を図る。

## ② 園児募集

- ・ 一人ひとりの良さを個性として大切にしている園の保育の良さが伝わっていくよう、園庭開放や未就園児サークルの参加者に丁寧にかかわり、信頼関係を築く。
- ・ Facebook やホームページを有効活用し、情報配信を行う。
- ・ 地域に新興住宅地が建設予定である。附属幼稚園の良さや教育内容を広めたい。保護者の関心が向けられることで、園に足を向けていただくきっかけにつなげる。

## ③ 安全対策について

- ・ 教職員が個々に環境の美化や整備に努め、衛生的な印象を保つ。
- ・ 設備遊具の安全点検を徹底し、結果を掲示する。
- ・ 定期的に避難訓練を行い、園児自身が安全に関する意識や動きを習得していく。
- ・ 各危機管理マニュアルを全教職員で再周知する。

## 6 学校関係者の評価

日 時 平成30年7月6日 16:00～17:00

場 所 盛岡大学附属厨川幼稚園

### 《 評価内容 》

評価項目	関係者評価内容・意見
I. 保育の計画性について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時間不足の中で、研修した内容を少しでも日常に反映させようと努力している。</li> <li>・ 附属幼稚園として、国全体の動向を見ながら、新しい保育のあり方を探ってほしい。</li> <li>・ 各学年での保育の仕方の研修があっても良いのではないか。</li> <li>・ キリスト教精神ということが、もっと保護者に伝わってもいいのではないか。</li> </ul>
II. 保育の在り方、幼児への対応について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 先生方の話し合いがなされ、保育に繋がっている。</li> <li>・ 施設、遊具については、ひとつずつ改善が必要かもしれない。</li> <li>・ 子どもと教師の関係はとても良いと感じる。</li> <li>・ 一人ひとりにあったニーズを考え、子どもを主としたやり方に共感を持てる。</li> </ul>
III. 保育者としての資質と能力について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 先生方の努力が保護者に伝わり、良い関係がつけられている。</li> <li>・ 保育と保育者養成という両面があるので、資質を高めるよう努力してほしい。</li> </ul>

IV. 保護者への対応について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て相談、ニーズについては、要望を受けて何かひとつでも改善策を取り組んでほしい。</li> <li>・よい関係にあることがアンケートからも分かった。子育てに日頃、話題として応える関係をつくってほしい。</li> </ul>
V. 地域の自然や社会とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よく取り組まれ、評価も適切と感じた。</li> <li>・地域での体験学習をこれからも積極的に進めてほしい。</li> <li>・行事ごとの案内だけでなく、地域の方との交流会等あってもいいかもしれない。</li> </ul>
VI. 研修と研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修と保育実践がつながっている。</li> <li>・今回の幼稚園教育要領と園内研究との関連性を明確にして、研究を進めてほしい。保育者養成園として学生たちにとってもわかる研究をしてほしい。</li> </ul>

《 意 見 》

- ・働き方改革が問われている。より良い保育のために、時間を作り出すことも必要かもしれない。
- ・多岐にわたる内容である。重点項目に絞って確認していくと良い。

7 財務状況

公認会計士の監査により、適正に運営されていると認められている。